

国連UNHCR協会 活動報告2021

ANNUAL REPORT 2021



JAPAN FOR



UNHCR

国連UNHCR協会

難民を守る。難民を支える。 わたしたちは、国連UNHCR協会です。

ユー・エヌ・エイチ・シー・アール

UNHCRとは —— UNHCRは国連難民高等弁務官事務所(The Office of the United Nations High Commissioner for Refugees)の略称で、1950年に設立された国連の難民支援機関です。紛争や迫害により故郷を追われた難民・避難民を国際的に保護・支援し、難民問題の解決に対して働きかけています。1954年と1981年の2度にわたり、ノーベル平和賞を受賞。緒方貞子さんが、第8代国連難民高等弁務官として活動を率いました。

国連UNHCR協会の使命

- UNHCR公式支援団体として、日本社会と難民や最前線で援助活動に従事する人々をつなぎます。
- 難民および難民支援の国連および関係機関に向けた日本社会からの物心両面の貢献を格段に高めます。

上記の使命を果たすために以下の活動を行っています。

資金調達活動

難民援助活動の資金確保に取り組み、世界の人道支援に最大限貢献する。

コミュニケーション活動

日本社会における難民問題の認知と理解を拡大し、共感と連帯の輪を広げる。

私たちの行動原則

- ▶ 民族、宗教、思想、性別、国籍等の違いにかかわらず、人間の命と尊厳を大切にします。
- ▶ 常に新しい支援の形や参加機会を創出し、成長と挑戦を続けます。
- ▶ 寄せられたすべてのご支援に対して責任を持ち、誠実に説明責任を果たします。
- ▶ 様々な意見に耳を傾け、一人ひとりの思いを尊重します。



ユー・エヌ・エイチ・シー・アール

UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) の活動を支えてくださっている日本の皆様へ感謝申し上げます

多数の危機が日々勃発し状況が悪化している難しい時代を、私たちは生きています。私たちは、世界の至る所に影響がおよんでいる新型コロナウイルス感染症や、飽くなき欲望を満たすための消費と生産が地球を破壊している気候危機を目の当たりにしています。間違った方向に進んでいる。誰もがそう気づいているはず。歯止めが利かず解決が困難な紛争も、避難を強いられる人々の増加に拍車をかけています。その数は過去10年で倍増し、過去3年間で100万人の子どもが避難先で誕生しました。懸念しているのは、その数が1億人に達するか否かではなく、むしろいつ達するのか、ということです。私は昨年アフガニスタンを訪れました。無条件かつ大規模な人道援助が直ちに必要なることを、皆様も耳にしたことと思います。私たちは時折、無力さを感じ悩むことがあります。しかし挫けることなく、故郷を追われた人々の勇気や回復する力からインスピレーションを得るのです。逆境を乗り越え、2021年東京オリンピック・パラリンピックで競った難民のアスリートたちは、我々がなぜ諦めてはいけないかを教えてくれる存在です。

誰も、一人ではやり遂げられません。しかし力を合わせれば、勇気と謙虚さをもって、真の連帯精神で個人や国の事情より公共の利益に重きを置けば、私たちは成し遂げられるのです。

第11代国連難民高等弁務官
フィリップ・グランディ



表紙写真について

放課後に親友のマイラさん(写真右)と遊ぶアフガン難民のシャジアさん(写真左・10歳)は、隣国パキスタンで公立の学校に通っています。学び、遊び、友達との時間。当たり前のようにかけがえのない一瞬。その大切さを難民の子どもたちは知っています。アフガニスタン周辺国では、206万人以上のアフガン難民を受け入れています。コロナ禍が続く受入国も苦しい状況が続くなか、難民の子どもたちに教育の機会を提供し続けていくことは現地で欠くことのできない支援のひとつです。

日本の皆様から、2021年を通して寛大なご支援をいただいたことに、心より御礼申し上げます。前年に引き続き、皆様のご厚意によるご支援総額は当初の目標を上回り、日本の民間から世界への共感を示すことができました。

援助現場では、ミャンマーやアフガニスタン情勢の悪化、気候変動の影響、さらに新型コロナウイルス感染症によって、難民・国内避難民のおかれた環境はさらに厳しいものになりました。加えて2022年は、ウクライナ侵襲によって多くの犠牲者が出ており、戦地から避難する人々への支援が必要です。UNHCRが常に緊急事態への準備を整え、様々な現場での援助活動を展開できるのは、皆様からのご支援のおかげです。昨年夏には、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、日本に世界の視線が注がれるなか、難民選手団が大会に出場しました。いわゆる「難民」と呼ばれる人々に対する理解は、少しずつですが日本社会で確実に進んできていると感じています。

これ以上、世界の状況を悪化させない。難民の数を少しでも減らす。そのために今、私たちにはできることがある。そう信じて、日々の活動に取り組んでいます。今後とも日本の民間からUNHCRの活動を支え、支援を必要としている人々の命を守り、希望を届けるために、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 国連UNHCR協会
理事長 宮内孝久



2022年4月就任

2021年、UNHCRの支援を受けた人々の声をお届けいたします！

「樹木の世話をして
平穏な日々を過ごしています」



© UNHCR / Sakat Wajumder

植林プロジェクトを通して3000人以上が訓練を受講

「一番楽しいのは、
授業や人との出会いです」



© UNHCR / Maritim Gray Pereira

実習に取り組むアンジェラさん

「ここに来て、
毎日が変わりました」



© UNHCR / Azei Hurtado

描いた絵をセンターで展示しているセバスチャンくん

「いつか、私のように助けを必要
とする、すべての人を助けたい」



© UNHCR / Mohammed Hameen

妹と一緒にハムゼさん

From バングラデシュ

モハメドさん

(28歳・難民キャンプの樹木管理人)

「ここは木がなく、砂漠のようでした。日中は酷暑に耐え、肌が傷つくこともありましたが」と、ロヒンギャ難民のモハメドさん。水やりや苗木の手入れ、地滑りで倒れた木の植替えなど、難民キャンプの緑化を担う仕事は多岐にわたります。「いつか国に帰るとき、そこでも私は木の世話をして、人々に木々を大切にできるよう伝えていきたいと思います」。

気候変動への取り組み・持続可能な支援の形

2017年8月以降、ミャンマーから約77万人のロヒンギャの人々がバングラデシュに流入。クトゥパロン難民キャンプでは、シェルターやインフラ整備のため木々の伐採が余儀なくされました。UNHCRとパートナー団体は、成長の早い在来種の樹木、低木などの植林プロジェクトを通じて、森林の生態系の回復と丘陵の斜面の安定化に努めています。

From モザンビーク

アンジェラさん

(29歳・電気技師の職業訓練を受講)

国内の暴力から逃れ避難生活を送るアンジェラさんが技術・職業教育訓練に選んだのは、電気技師のコースです。「女性は男性と同じくらい優れた技師になれると思いますし、『電気技師は男性の仕事』というイメージを払拭したくてこのコースを選びました。一番楽しいのは、授業や人との出会いです。どの先生も親切で、元気をくれます」。

生計支援・女性支援

UNHCRはパートナー団体IFPELACとともに、カボ・デルガード州の州都ベンバの国内避難民とホストコミュニティの若者225人を対象に技術・職業教育訓練を実施。多様な生計スキルの向上を目指して、生活技能やスタート・アップ・キット、実習の機会を提供し、雇用の機会を広げるとともに、社会的な結束、女性のエンパワーメントを促進しています。

From チリ

セバスチャンくん

(10歳)

サンティアゴ市では、社会経済的に弱い立場におかれていたり、保護者が仕事や職探しに追われている子どもに支援や養育の場を提供するサービスを開始しました。ベネズエラ人のセバスチャンくんは、放課後にケアや食事の支援を受け、学習アクティビティに参加しています。「ここに来て毎日が変わりました。自分のことを大切に思うようになり、気分が良くなりました」。

子どもの保護

サンティアゴの3つのセンターで展開する「地域子育てセンター」プロジェクトでは、43人の子どもに食事やケアを提供しています。UNHCRは物資購入のための経済的支援を行い、60台以上のタブレット端末を寄贈。新型コロナウイルスの影響が続くなか、子どもたちがバーチャル授業にアクセスできる環境が整いました。

From ヨルダン

ハムゼさん

(18歳・大学生)

高校最終学年で受ける共通テストで優秀な成績をおさめたシリア難民のハムゼさんは、UNHCRとドイツ政府の奨学金「DAFI」を受け大学でコンピューターサイエンスを専攻。「シリアならもっと楽だったかもしれません。ここでは、将来のためにさらなる奮闘が必要でした。私にとってDAFIはとても意味があり、なければ学び続けられなかったかもしれません」。

高等教育支援

2021年、UNHCRはヨルダンでDAFI奨学金を通じて難民40人の大学への入学を支援。同国では、約200名の学生が同奨学金制度を利用し大学で学んでいます。DAFIとは…「アルバート・アインシュタイン・ジャーマン・アカデミック・レフュジー・イニシエティブ」の通称。難民の自立と恒久的な解決を目的とした高等教育奨学金。

2021年皆様からのご寄付により、UNHCRは世界各地で避難を強いられた人々へ、多くの援助物資を届けることができました。

毛布
4,862,816枚

バケツ
1,003,805個

給水容器
363,110個

調理器具セット
987,142家族分

蚊帳
1,440,326張

ビニールシート
2,118,064枚

就寝用マット
3,319,068枚

ソーラーランプ
1,300,742個

家族用テント
90,202張

※日本を含む全世界からのご寄付による支援の成果の一部です
(新たな難民危機と継続している危機への対応を含みます)

出典：2021 Donor Impact Report

UNHCRの日本人職員の声をお届けします

From アフガニスタン

宮内博史

UNHCRアフガニスタン事務所 保護官

約40年にわたる紛争や度重なる自然災害により、アフガニスタンでは2400万人以上の方が人道支援を必要としており、人口の半数以上が緊急の食料危機に直面すると国連は警鐘を鳴らしています。紛争により避難を強いられた約340万人の国内避難民に加え、難民、帰還民、さらには受け入れコミュニティの方々の多くが食料、シェルター、医療など、生存に必要な不可欠な支援を必要としています。

保護官としてカブールで勤務を始めてから約2年が経ちますが、甚大なニーズを前に、どうしたら一人でも多くの方々に必要な支援を届けられるかを考え、日々活動しています。具体的には、難民や避難民などのニーズ調査を行ったり、フィールドからのデータや情報をもとに、より効果的・効率的に支援を行うためのプログラムを開発・改良したりしています。



去年は、多くの方々からのご支援のおかげで、UNHCRは約115万人の方々に、シェルターや毛布の提供、食料などを調達するための現金給付、精神カウンセリングなどの支援を行いました。

とてつもない困難に直面しながらも力強く生きているアフガニスタンの方々の姿を日々目の当たりにし、私は敬服の念が堪えません。そのような方々一人ひとりが大切にされ、尊厳をもって生きていけるよう尽力する所存です。どうか今後もアフガニスタンの方々へお力をお貸いただけますよう、心よりお願い申し上げます。

自由時間に
ほっと
一息

カブールでは自由に外出ができず、国連の敷地内でほとんどの時間を過ごしています。娯楽も少ないので、ランニングやジムでのトレーニングをして、フィットネスを整え、リフレッシュをするよう心がけています。



カブール市内で、国内避難民の方々のニーズ調査を実施

皆様のご支援があったからこそ、UNHCRは2021年アフガニスタンにおける緊急事態への対応を迅速に拡大することができました

現在も予断を許さないアフガニスタンの状況、急増した国内避難民の保護と支援にご寄付がどのように役立てられたのかについて、お寄せいただくことのできる質問に答える形でお伝えします。

Q. アフガニスタンの緊急事態はどのように発生したのでしょうか？

40年以上にわたり紛争が絶えない同国では、2021年1月に武力衝突が激化し、状況が急激に悪化。国の大部分で高まった情勢不安により、死傷者の数は過去最多を記録しました。2021年下半年さらに紛争が激しさを増し、8月の旧政権の崩壊により頂点に達しました。現在、戦闘はほぼ停止しているものの、気候関連の災害の増加や慢性的な貧困、食料不安をはじめ、数々の困難が人々の命と権利を脅かしています。

新たに国内で避難を強いられた人*
約69万9000人

新たに周辺国に避難した人*
約14万1200人

*2021年1月～2022年1月中旬

Q. アフガニスタンで寄付はどのように役立っていますか？

2021年、アフガニスタンにおける緊急事態への対応を迅速に拡大するという目的のもと、UNHCRに集まった資金は4000万米ドル(約44億8000万円)以上にのびました。皆様のご支援をはじめ、こうした資金があったからこそ、アフガニスタンの人々がもっとも助けを必要としている時、UNHCRは現地に留まり援助活動を続けることができました。世界中の倉庫で在庫を確保しスタッフを訓練することで、安全なシェルターや衛生設備、現金の給付支援、医療・心理社会的支援、保護サービスを提供し、救援物資を人々に届けることができました。また、冬の寒さから命を守るために、保温毛布や断熱キットなどの必需品も届けました。

Q. この危機で影響を受けている人々が直面している最大の困難は何でしょうか？

2021年、紛争と情勢不安によって何十万人もの人が避難を強いられたアフガニスタンでは、新型コロナの大流行と深刻な干ばつで多くの人がさらに追いつめられ、飢餓や貧困、支援のニーズはかつてないレベルに達しています。先行きは依然として不透明であり、避難を余儀なくされている人々は、シェルターや水、食料、保護、心理社会的支援を必要としています。

人道支援が必要な人口の半数以上

高いレベルの食料不安に直面している人口の3人に1人

2022年貧困に陥る可能性のある人口の97%

2021年8月以降に届けることのできた緊急支援

- 必要不可欠な援助物資の支援**
19万9900人
- 衛生キットの配布**
6万4400人
- 越冬支援としての現金給付**
26万3200人
- シェルター・家賃のための現金給付**
8万8900人
- 保護のニーズに応える現金給付**
7万4300人
- 再定住支援としての現金給付**
5万4700人



©UNHCR / Andrew McConnell

UNHCRの新型コロナウイルス対応2021 すべての支援対象者にワクチンを

UNHCRが世界各地で実施した新型コロナウイルスワクチン関連の活動をハイライトでご報告いたします。



2021年、世界132か国で UNHCRの支援対象者への ワクチン接種が実施されました。

※公衆衛生、新型コロナウイルス関連の対応は、それぞれの国の責任の下で実施され、UNHCRの支援対象者のためのワクチンの運搬・管理は、避難先の保健当局によって調整されます。UNHCRは各国で、難民も平等にワクチンを接種できるよう働きかけるとともに、保健省や医療パートナー、他の国連機関と連携し、ワクチン接種をサポートしています。

ヨーロッパ

イタリア

UNHCRは、検疫施設にいる支援対象者への早期のワクチン接種が確実に行われるよう、同国内務省に提言。

アゼルバイジャン

難民と庇護希望者を対象にしたワクチン接種調査を主導（11月時点で700人が調査対象）。同国の接種プログラムで85%が接種したことが明らかになりました。

アジア・太平洋

イラン

多くの難民を受け入れている同国に、コバックス*の一環として寄付されたワクチンの第一陣が到着。UNHCRはそうした寄付を呼び掛けるとともに、同国でコバックスの申請プロセスをサポート。
※新型コロナウイルス感染症のワクチンを共同調達し、公平な分配を目指す国際的な枠組み



奨学金を受けイタリアの大学院に進学するソマリア難民のアシャさんはイタリアの空港で接種



ヨルダン・マフラクの医療施設でワクチンを接種した104歳のシリア難民アイシャさん



アメリカ大陸

パナマ

さまざまな事情により流入してくる人々の主な中継地のひとつ、ダリエン県の医療施設でソーラーパネルの導入を支援。施設の稼働、ワクチンや医薬品の低温流通に必要な電力を確保しました。

ベネズエラ

UNHCRが提供した19のレフュジー・ハウジング・ユニット(RHU)を、ワクチン接種や外来に活用。

中東・北アフリカ

ヨルダン

11月、UNHCRの登録センターのワクチンステーションで1100人以上がワクチンを接種。12月時点で接種対象年齢に達したキャンプの難民の53%、都市部の難民の33%が接種しました。

レバノン

同国南部で難民へのワクチン接種を支援するため、移動式ワクチンユニットを展開。

東アフリカ

スーダン

保健・社会開発省が、難民も含めたワクチン接種を実施。UNHCRは難民キャンプで医療関係者向けのトレーニングをサポート。

西アフリカ

ナイジェリア／カメルーン

UNHCRは、遠方の地域や居住地における移動式ワクチン接種チームの展開を支援しました。

南アフリカ

アンゴラ

10月、滞在許可証を持たない人々へのワクチン接種を促進するために同国保健省が手配したプラットフォームを通じて、滞在許可証を持たない難民のグループがワクチンを接種。UNHCRとパートナーの提言もこの流れを後押ししました。

その他の新型コロナ対応例

▶ 感染防止、保健医療分野における各国政府の支援

▶ 安全な水の確保や衛生用品の配布をはじめ、水と衛生関連のサービスの強化



医療危機に見舞われたエクアドルで、パンデミックの宣言以来、多数のRHUを導入、医療システムを支えた



バングラデシュのキャンプでは、コミュニティ・ヘルスワーカーが新型コロナへの注意喚起で手洗いを指導

▶ 移動を強いられた人々の権利が尊重されているか、モニタリングと介入を強化

▶ 感染拡大による社会経済的な影響を抑える現金の給付支援の拡大



コロナ禍、中央アフリカ共和国から逃れてきた家族が支援からこぼれ落ちることのないよう登録を実施



チリでは、一次医療を受けられない難民や移民を支援。薬や治療費、食料などにあてる現金の給付支援も実施

UNHCRの2021年を振り返る

皆様からのご支援により、2021年も世界各地で難民・国内避難民の援助活動を進めることができました。

1~4 月 「スピーカーで息子の名前が呼ばれたのです。信じられないほど幸せです」

難民キャンプの火事で息子とはぐれ、ヘルプデスクの支援で再会を果たしたロヒンギャ難民のハリマさん

中央アフリカ共和国

1月

新たに巻き起こる暴力 安全を求めて20万人が避難

中央アフリカ共和国では、国政選挙の影響で治安情勢が悪化し、1月末までに暴力によって20万人以上が避難。国内で避難する人々がいる一方、国外にも約10万人が逃れ、連日1000人もの人が国境を越えました。遠方であることに加え、道路の状況も悪く現場へのアクセスが困難を極めるなか、UNHCRは避難した人々の登録、食料やシェルターなどの援助物資の支援、雨季に備えた物資の事前配備などを強化しました。



© UNHCR / Fabien Bivare

2人の子供を連れてコンゴ民主共和国へ逃れてきたボリスさんとクリスティヌさん。急場しのぎでつくられたシェルターの前で

イエメン

2月

紛争が拡大し 深刻な人道危機が悪化

イエメン・マリブ地区の戦闘が再開し、すでに避難を強いられ支援を必要としている人々が、さらなる窮地へと追い込まれる事態に。2015年の紛争開始以降、同国は深刻な人道危機に陥っており、長期にわたる避難生活、新たな避難、貧困、2000万人以上の命を脅かす食料不足の問題に直面しています。UNHCRは現地に留まり、援助物資各種の配布や現金の給付支援、人々の保護などの活動を継続しています。



© UNHCR / YPN / Jasad Al-Nahari

イエメンでは430万人以上が国内で避難。サナアからマリブ地区に逃れてきたムサエダさんは、視覚と聴覚の障がいを抱えている

バングラデシュ

3月

世界最大規模の難民キャンプで火災 壊滅的な被害に

ロヒンギャ難民が避難するクトゥパロン難民キャンプで、大規模な火災が発生。広範囲にわたって壊滅的な被害を受け、15人の難民が命を落とし500人以上が負傷しました。UNHCRは、火災で持ち物や住む場所を失った4万8000人を対象に必要な不可欠な支援の提供や保護活動を展開。心理社会的サービスの提供のほか、保護者とはぐれた600人以上の子どもと家族との再会にも尽力しました。



© REUTERS

火災による壊滅的な被害の様子。UNHCRは毛布、ソーラーランプ、医療用品などの配布のほか、緊急衛生施設を再建した

モザンビーク

4月

武装勢力の暴力が激化 見過ごされてきた危機に警鐘

モザンビーク北部カボ・デルガード州で武装勢力の暴力が激化。何万人もの人が避難し、医療や食料、水、シェルターへのアクセスに深刻な影響がおよびました。身一つで逃れた人々の大半は女性と子どもであり、心に傷を負っていました。UNHCRは毛布や寝蓆用マットの配布、シェルターや心理社会的支援の提供など、迅速に援助活動を実施。3年前の危機の開始以来、避難を強いられた人は70万人にのぼります。



© UNHCR / Delany de Sousa

武装勢力の暴力によって、海岸沿いの街バルマから逃れてきた家族は、UNHCRとパートナー団体から援助物資の提供を受けた

5~8
月

「借金を返せなかったら、我が子を売らなければならなかったかもしれません」

多くの人が極度の貧困に直面するアフガニスタンで夫を殺され、避難先で現金の給付支援を受けたザリナさん

コンゴ民主共和国

5月

北キブ州で火山が噴火
数十万人が避難

コンゴ民主共和国・北キブ州のニラゴンゴ火山が噴火し、数十万人が避難。現在も数千人が避難したままです。同地では、過去数年で200万人以上が残忍な暴力のために避難を強いられ、2021年5月の噴火はその深刻な状況に追い打ちをかけました。UNHCRは被災者に緊急シェルターや毛布などの救援物資を配布し、心理社会的サポートをはじめさまざまなサービスを提供するなど、援助活動を迅速に展開しました。



© UNHCR / Guenther Ndebo

「目の前ですべてが破壊されました」と、ジーンさん。妻のエスブランさんは、家のあった場所に立ち尽くした

世界

6月

避難を強いられている人の数が
記録史上世界最多に

6月公開のUNHCRの「グローバル・トレンド・レポート」*によると、世界で暴力や迫害から逃れている人は2020年に8240万人に達しました。グランディ高等弁務官は、UNHCRの責任を強調しこう述べました。「それぞれの数字の裏には避難を強いられた人がいて、強制移動と苦しみのお話があります。彼らは人道的な支援のほか、窮状の解決においても注意を向けられ、サポートされるべき人々です」。*UNHCRの年間統計報告書



© UNHCR / Marim Gray Pereira

モザンビークで国内避難民の話聞く職員。2021年後半までに、世界で暴力や迫害から逃れている人の数はさらに増え、8400万人に達した

エチオピア

7月

暴力の激化により
北部の人道状況がさらに悪化

ティグレ州で武装勢力の暴力が激化し、6月に何百人もの死傷者を出した空爆の影響が残るコミュニティにさらに打撃を与えました。飢きんや強制移動、ジェンダーに基づく暴力や迫害の危険につながる難民の強制送還などの人権侵害のリスクが何十万人もの命を脅かし、北部一帯の人道状況は悪化しています。UNHCRは専門家を派遣し、緊急シェルターや心理社会的サービスを提供するなど、同地での対応を強化しました。



© UNHCR / Hanna Qais

東部の半砂漠地帯の居住地で、就寝用マットや給水容器、ソーラーランプなどの援助物資を200家族に配布

アフガニスタン

8月

アフガニスタンの危機で数十万人が
深刻な状況に追い込まれる

紛争で人道危機が加速し、すでに瀬戸際にあるアフガニスタンは、さらなる治安情勢の悪化と困窮に直面。紛争の激化は、8月の旧政権の崩壊で頂点に達し、同国全土で何十万人もの人々が避難を強いられました。皆様のご支援があったからこそ、UNHCRはこの事態への対応を迅速に拡大し、シェルターや緊急援助物資の提供、現金給付のほか、命を守る支援を助けを必要とする人々に届けることができました。



© UNHCR / Andrew McConnell

パンを乞うカブールへ避難している女性と子ども。新たに避難を強いられた人々の多くを占めるのは、女性と子どもです

9~12月 「このような嵐やハリケーンを経験したことは、これまで一度もありません」

中米ホンジュラスを襲ったハリケーンで家を失い避難したエルサさん

世界

9月

続くコロナ禍 資金不足のなかで脅かされる命

UNHCRは、故郷を追われた人々の命と健康にとって、パンデミックが重大な脅威であり続けていると警鐘を鳴らしています。移動や仕事の制限、保健衛生システムの弱体化の恐れは、難民の命、とりわけ高齢者のような脆弱な人々の生命を脅かしています。9月に発表された報告によると、新型コロナ対応はUNHCRの活動の中でもっとも資金不足に直面している分野であり、かつてなく世界からの支援が必要とされています。



© UNHCR / Alex Hugnet

UNHCRが提供するフライトによる中央アフリカ共和国への自主帰還の前に、新型コロナの検査を受ける男子

ベラルーシ・ポーランド

10月

国境地帯に足止めされる人々が 過酷な生活環境に直面

8月中旬以降、ベラルーシとポーランドの国境地帯に足止めされてきた数千人の難民や庇護希望者は、適切なシェルター、食料・水の確実な供給源のないその場しのぎのキャンプで、空腹に耐え野外で眠ることを余儀なくされていました。状況が急速に悪化するなか、UNHCRは最も影響を受けている人々に食料や毛布、衛生用品など、緊急に必要な支援を提供。状況を把握し、人道的な解決策を見出すために活動しました。



© UNHCR / Katsaryna Golubova

極寒の冬が迫り、国境地帯に足止めされた人々の命が危ぶまれるなか、UNHCRは国際移住機関(IOM)とともに緊急支援を実施

世界

11月

気候危機がもたらす 難民・国内避難民への切迫した影響

難民の90%、国内避難民の70%は、気候危機の最前線にある地域の出身です。異常気象は紛争や貧困による深刻な影響を悪化させ、人々のさらなる避難につながるため、避難を強いられた人たちの大多数を受け入れている開発途上国で暮らす人々にとって、とりわけ大きな脅威です。UNHCRは国連気候変動枠組み条約第26回締約国会議(COP26)に参加し、最も脆弱な立場にある人々への緊急支援を呼びかけました。



© UNHCR / Jaime Gimenez

避難先の国で洪水が起き、援助活動に参加する医師。中米では災害の頻度と破壊力が増しギャングから逃れてきた人々の生活がより困難に

カメルーン

12月

乏しい水資源をめぐる衝突が発生し 何万人もの人々が避難

過去60年でチャド湖の水面は95%も減少し、カメルーンの最北地域では、こうした気候危機でグループ間の緊張が高まり、減りゆく水資源をめぐる衝突が発生しました。少なくとも10万人が避難を強いられ、多くの方は隣国チャドへ逃れて過酷な環境に直面しています。UNHCRはシェルターや保健サービスの提供、そのほか命を守る援助活動を迅速に行うとともに、コミュニティ間の和解の促進にも努めています。



© UNHCR / Aristophane Ngarpane

資源をめぐる発生した争いによって、カメルーンからチャドへ逃れてきた人々

企業・団体からのご支援

2021年は新型コロナウイルス感染症の対策や各国の緊急支援が急がれるなか、さまざまな形で企業・団体の皆様にご支援をいただきました。UNHCRの難民保護・援助活動に温かいご支援をお寄せいただきましたことに、心より御礼申し上げます。

株式会社ファーストリテイリング



バングラデシュでマスクを配布する様子

日本国内では「届けよう、服のチカラ」プロジェクト、ユニクロ・ジーユー32店舗での毎月の難民支援募金実施協力、WILL2LIVEムーブメント*への協賛など多岐にわたる支援を行っています。2021年からは、お買い物や店頭での服のリサイクルで貯まるジーユーマイルを通じた支援も開始し、約700万円を寄付しています。*WILL2LIVEムーブメントの詳細はP12をご覧ください

2021年、株式会社ファーストリテイリングとUNHCRのグローバルパートナーシップは10周年を迎え、2020年9月～2023年8月までの3年間でUNHCRへ450万米ドル(約4億7500万円)以上の寄付と年間最大700万着の衣料支援を表明しています。2021年は400万着のリサイクル衣料に加え、新型コロナウイルス感染症対策として、アジア・南米・中東10か国の難民に「エアリズムマスク」300万枚の寄贈を表明。アフガニスタン難民への越冬支援として、80万米ドルの寄付のほか、ユニクロの「ヒートテック」やアウターなど合計100万点の寄贈を表明しています。



ジーユー御徒町店での募金活動の様子

株式会社 富士メガネ



アゼルバイジャンで視力スクリーニングを行う金井会長

株式会社富士メガネは「これまでさまざまな方から受けたご恩をお返ししたい」という強い思いから、1983年に社員が「視援隊」として難民援助活動の現場を訪問し、視力検査やメガネを贈る活動を開始。翌1984年にUNHCRとのパートナーシップを結び、現在も活動を継続しています。これまで世界8か国(タイ、ネパール、アルメニア、アゼルバイジャン、タンザニア、ケニア、イラク、バングラデシュ)の難民や国内避難民に約17万組以上のメガネを寄贈しています。2021年はコロナ禍の影響で現場を訪問することは叶いませんでしたが、メガネ3500組、眼内レンズ20枚、補聴器40台をアゼルバイジャンに寄贈。また、2013年から10年間で100万米ドル、さらに追加で2018年から10年間で200万米ドルの資金援助を表明しています。日本国内では2007年から店舗に150余りの募金箱を設置し、お客様と一丸となった支援も実施しています。



← 1984年より38年間、UNHCRとのパートナーシップを最も長く継続している富士メガネ。UNHCR設立70周年企画、金井会長の特別インタビュー記事はこちら

ステラケミファ株式会社



ステラケミファ株式会社は企業の社会貢献活動の一環として、長年にわたり難民支援を行っています。緊急支援の必要性が高まった2021年も、引き続きUNHCRの難民援助活動への資金援助を実施しました。

ヤフー株式会社



Yahoo!ネット募金ではTポイントで1円から、クレジットカードの場合は100円から寄付を受け付けています。6月20日の「世界難民の日」には特設ウェブサイトを設置し、難民支援に賛同した著名人や企業による「くじ付き募金」を実施。また、アフガニスタン緊急支援では、敏速に専用募金ページを開設し、全国から多くのご寄付を受け付けました。

難民支援の現場から ① 企業が取り組む難民の自立支援



【ソニー寄贈のカメラで撮影】インドで活躍する職人のアルチャさん



MADE51について
(英文のみ)

UNHCRは、長期化する避難生活の中で難民が安全に尊厳をもって生活できるよう、生計向上支援にも力を入れています。ファーストリテイリングは8か国計120名の難民雇用や生計向上プロジェクト支援などを通して、難民の自立支援に積極的に取り組んでいます。2021年は、ユニクロとファーストリテイリンググループのTheory(セオリー)が、UNHCRのグローバルブランド「MADE51」の難民の女性たちと連携してブレスレットやタッセルを製作。お客様にプレゼントしました。またソニーグループ株式会社は、ミラーレス一眼カメラα™を寄贈しインドの「MADE51」を支援。難民が撮影した写真は、Theoryの「MADE51」ホリデーコレクションのキャンペーン写真としても使われました。

難民支援の現場から② トヨタグループの取り組み(アフリカ・中東)

車両部品とフェイスシールドがアフリカ10か国に到着 豊田通商株式会社



部品を受け取るUNHCRニジェール職員



コンゴ民主共和国に到着した部品



御礼メッセージを掲げるUNHCRチャド職員

豊田通商株式会社は、新型コロナウイルス感染症から難民を守るため、現地に留まり援助活動を継続するUNHCRの活動に賛同。トヨタグループの「ココロハコブプロジェクト」を通じ、トヨタ車のメンテナンス部品とフェイスシールドを現地に届けました。今回のご支援は、アフリカに深く根差しアフリカの人々とともに成長する長期的な視点で事業を展開する豊田通商グループのビジョン「WITH AFRICA FOR AFRICA」に基づき実施されました。UNHCRの活動拠点であるアフリカ10か国(カメルーン、チャド、コンゴ民主共和国、エチオピア、ケニア、ニジェール、南スーダン、スーダン、タンザニア、ウガンダ)で、UNHCRの重要な“足”である車をメンテナンスすることにより、必要とされている支援を継続して現場に届けることができました。

トヨタ自動車株式会社 夢のクルマアートコンテスト ヨルダンの難民の子どもたちが参加

中東・中央アジア地域の子どもたちを対象に実施した「トヨタ 夢のクルマアートコンテスト中東アワード」に、ヨルダンの難民の子どもたち49名が参加。そのうち、3名が優秀賞、8名が特別賞を受賞しています。また、UNHCRの教育支援に資金援助もお寄せいただきました。



作品はこちらからご覧になります

ロヒンギャ難民支援

立正佼成会一食平和基金

2017年以降、ミャンマーでの暴力行為から逃れてきたロヒンギャ難民は約77万人にのぼり、現在90万人以上がバングラデシュで避難生活を送っています。密集した状態で人々が暮らす難民キャンプでは、新型コロナウイルスの感染拡大の防止の支援も重要になっています。



水と衛生

株式会社日田天領水

自然からの恩恵である水を扱う会社として、十分な水を確保できず困難な状況にある人たちを支えたいと、長年にわたりご支援をいただいています。清潔な水は、難民の命を守り、健康を維持するために不可欠です。

新型コロナウイルス感染症支援

真如苑／創価学会／日本労働組合総連合会 一般財団法人ありがとうインターナショナル

UNHCRは、新型コロナ対応として医療物資や公衆衛生、難民保護、隔離シェルター、衛生教育等、広範な支援活動を実施。また、難民がワクチンを接種できるよう、各国政府への働きかけを継続しています。



アフガニスタン難民支援

ピープルフォーカス・コンサルティング株式会社／ 株式会社オフィス・カラーサイエンス

情勢の悪化により、アフガニスタンでは避難民が急増しており、そのうち約80%は女性と子どもで、人権侵害へのリスクが懸念されています。

2021年は約3600の企業・団体の皆様から温かいご支援をお寄せいただきました。(50音順)

株式会社アーバネットコーポレーション
アメリカン・エクスプレス・インターナショナル, INC
イーグル工業株式会社
株式会社イオン銀行
SMBC日興証券株式会社

株式会社 木村洋行
三栄製薬株式会社
株式会社キャストック
シダックス株式会社
信越化学工業株式会社

大産住宅株式会社
大和ハウス工業株式会社
株式会社ハーモニック
パラカ株式会社
株式会社ブロッコリー

株式会社 明治
八千代電設工業株式会社
MS&ADゆにぞんスマイルクラブ
公益財団法人公益推進協会

国際ソロプチミストアメリカ 日本5リジョン
J.S. Foundation
全国電力関連産業労働組合総連合
マザーフード基金

日本国内での広報・募金活動

UNHCR WILL2LIVE (ウィル・トゥー・リブ) ムーブメント 2021



逆境を乗り越え、生き抜く意志を持つ難民の姿を伝えることで、難民への共感の輪を広げ、大きなムーブメントを日本で生み出すこと。このビジョンのもと、UNHCR WILL2LIVE ムーブメントは多方面と協力し、さまざまな取り組みを行ってきました。東京オリンピック・パラリンピックが開催された2021年は、スポーツと難民をテーマに新たなキャンペーン「RUN FOR Tomorrow」を展開しました。

主催：特定非営利活動法人 国連UNHCR協会
協力：国連難民高等弁務官 (UNHCR) 駐日事務所 パートナー：独立行政法人 国際協力機構



WILL2LIVE
公式ホームページ

世界難民の日 特別配信

「100万人のキャンドルナイト with UNHCR WILL2LIVE Music 2021」

世界難民の日が夏至と重なった2021年は、夏至にでんきを消してスローな夜を過ごすことを呼びかける「100万人のキャンドルナイト」と共催。WILL2LIVEの趣旨に賛同するアーティストやインフルエンサーのメッセージ、音楽などを通して、難民の生き抜くチカラを伝えました。



UNHCR WILL2LIVE Cinema 2021 募金つきオンラインシアター

映画を通して難民問題と向き合う機会を日本で提供することを目指す同イベントは、世界各地で制作された難民関連のドキュメンタリーから日本初公開の5作品を選定しオンラインで配信。翻訳と字幕は、学生の皆さんと企業にプロボノでご協力をいただいて制作し、上映する運びとなりました。



未来の難民アスリートたちを応援 RUN FOR Tomorrow

スポーツと難民をテーマに、ランナー向けアプリ「ラントリップ」、ランナーの利用者も多い各地の銭湯、映画「戦火のランナー」の配給元ユナイテッド・ピープルとコラボレーションし、未来の難民アスリートたちの応援キャンペーンを展開しました。



UNHCR WILL2LIVE ムーブメントはさまざまな企業・団体の皆様にご賛同、ご協力いただいています。



UNHCR WILL2LIVE Partners 参加企業・団体

ABC Cooking Studio / 愛知大学 / 明るい選挙千種区推進協議会 / 名古屋経済大学市邨高等学校 / 広島市立大学
北海道科学大学 / 順天堂大学国際教養学部 / 関西大学 / 関西学院大学 / 明治学院大学 / 明星大学 / 長崎大学
大妻中野中学校・高等学校 / オレンジページ / 札幌市 / 成蹊学園サステナビリティ教育研究センター
仙台育英学園高等学校 / SIT Band - 札幌国際情報高校吹奏楽部後援会 / OB会 / 創価大学 / 創価学会 / 東京家政学院大学

国連難民支援キャンペーン

2009年から開始した本キャンペーンでは、札幌、東京、名古屋、大阪、福岡の全5都市を拠点に、多くの企業・自治体の皆様は無償で会場をご提供いただき、毎月の継続的な寄付プログラムへのご参加を呼びかけています。昨年に引き続き2021年も新型コロナウイルスが猛威を振るうなか、活動を休止または縮小せざるをえない日々が続きましたが、キャンペーンにご賛同いただいたサポーターの数は2021年時点で12万人を突破いたしました。同キャンペーンの輪は、世界にも広がっており、スペインをはじめ、ドイツ、韓国、オランダなど計20か国で活動を展開しています。



感染対策を行いながら、キャンペーンについて説明をする様子

国連難民支援サポーターの皆様からお寄せいただいた声

難民の人々が苦しんでいることを知りながら、具体的に助ける方法が知られていません。根本的な問題解決、紛争を止めることができれば良いですが、その日がすぐに来るとも思えません。今はこうして、今苦しんでいる人が少しでも助かるようになればと思います。(30代)

I want to use my little power to help people and make the world better. (自分にあるのは小さな力だけれども、それを人々を助けより良い世界をつくるために使いたい) (20代)

私一人では非力ですが、助けたい気持ちの人たちがたくさん、たくさん集まって、地球に愛がいっぱいになってくれる日が早く来て欲しいです。(40代)

苦しんでいる人がいれば助けたい。役に立ちたい。コロナ禍が続いているからこそ、互いに協力しようとする雰囲気を作るべきだと思う。(20代)

さまざまな環境にある子どもたちが、一人でも幸せに大人になることを心より願っています。(60代)

職員の声

国連難民支援キャンペーン 中部チームリーダー
松岡 陽子

『日々のキャンペーンでは感染防止に細心の注意を払いつつ活動しています。コロナ禍で未来への不安が増していくなかでも、「今の私たちよりずっと大変な状況だから」、過酷な環境を乗り越えようとする難民に寄り添い手を差し伸べてくださる方々に出会えるこの仕事に、深い感謝とやりがいを感じています。難民の方たちは今なお先の見えない避難生活の中で、不安を抱えながら、それでも家族を守り生き抜こうとしています。どんな国に生まれても、命は等しく尊いはず。戦争がなく難民もいない、そんな世界がいつか来る。そう信じて現場に立ち続けます』



© UNHCR/UNICEF



キャンペーンブースのSDGs/パネル。"誰一人取り残さない"世界の実現を目指します

UNHCR難民高等教育プログラム (Refugee Higher Education Program – RHEP)

UNHCR駐日事務所との協同事業であるUNHCR難民高等教育プログラムは、社会経済的な理由で、日本の大学に通うことが困難な人のための奨学金制度です。同プログラムを実施しているパートナー大学・大学院は2021年までに12大学となり、その門戸は広がっています。これまでに80名が同プログラムを通じて大学に進学。うち37名が卒業し、それぞれの進路に進んで社会に貢献しています。また、RHEP奨学生は学業の傍ら、日本で難民に対する理解と共感を広めるために、イベントやキャンペーンなどの広報活動に参加しています。



UNHCR親善大使MIYAVIが、「難民の学生たちのいま」をテーマにRHEPの学生に話を聞きました



動画：難民の学生たちのいま

パートナー大学：関西学院大学・明治大学・津田塾大学・創価大学(学部/大学院)・上智大学・明治学院大学・聖心女子大学・関西大学・広島市立大学・帝京大学(学部/大学院)・天理大学・早稲田大学(大学院)
※各大学による奨学金には、授業料などの学費が含まれます。

RHEP学生の声 / アブダッラさん

大学の最初の一年では、情報科学者になることを目標にプログラミングと情報分析の知識のみならず、就職のため日本社会についての知識も身につけています。将来、人工知能に関する研究を深め、スマホのAIの発展に貢献し、母国シリアの再建にもつなげたいと考えています。



©国連UNHCR協会

教育事業・ユースとの連携

次世代を担う若い世代に向け、UNHCRの活動や難民問題について学ぶことのできる教育事業を展開しています。2021年は60以上の小・中・高・大学および団体で講演活動や学習訪問をオンラインツールも活用して実施。

小学校低学年対象の新ワークショップ「サトちゃんの大切なもの」をはじめ3つのワークショップは、日本各地で開催しています。春と夏に実施したオンラインセミナーでは、多くの教職員や学生の方にご参加いただきました。

難民支援に関わる学生団体のメンバー有志によって2020年に結成された「Youth×UNHCR for Refugees」は、当協会と連携して様々な挑戦をしています。

※詳しくは「難民についての授業の広場」をご覧ください。
www.japanforunhcr.org/news/2017/forteachers



雲雀丘学園小学校1年生で行われた「サトちゃんの大切なもの」



青い紙ひこうきに難民アスリートへの想いをのせて日本中をつないだ企画「Fly Your Message」(左)東京の銭湯で難民支援の輪を広げた「ほっこり銭湯プロジェクト」(右)



遺贈・相続財産からのご支援

2021年は、皆様の想いと大切な財産を未来につなぐ、遺贈・相続財産からのご寄付に関する多くのご相談をいただき、2200名を超える皆様から資料のご要望を賜りました。ご関心をお寄せいただいた方々に、心より御礼申し上げます。

相続対策・遺言書作成についての解説動画をご覧ください

遺言書作成・相続に詳しい専門家の先生方が、相続対策の基礎知識、遺言書作成の際の注意点について事例も交えて丁寧に解説する動画をご用意いたしました。

税理士・行政書士・司法書士によるセミナー視聴はこちらのURL ▶ <https://youtu.be/3wt6FEUoMvA> または右の二次元コードからご覧ください



相続財産からのご寄付は、相続税と所得税等の税制優遇が受けられます

- 遺贈：当協会への遺贈(ご遺言によるご寄付)には相続税がかかりません。
- 相続財産寄付：ご遺族が現預金など金銭で相続された財産から、相続税の申告期限内に現金で当協会にご寄付いただいた場合、その財産には相続税がかかりません。さらに、確定申告をされることで、所得税等の寄附金控除も受けられます。

人生の最後の意思を実現する遺言書の新しい保管制度

自筆の遺言書を法務局で預かる新しい保管制度が一昨年より始まり、すでに3万件近い保管申請があった*とのこと。この制度を利用すると、遺言書1通につき3900円の手数料*で法務局が安全に保管します。方式の概要は右記の通りです。「遺言書」は、人生の最後の意思を実現するためのもの。特別な人だけが書くものではなくなりつつあります。

*2021年12月現在

	公正証書遺言	自筆証書遺言 (法務局保管制度)	自筆証書遺言
概要	公証役場で、証人2名の立ち合いのもと、公証人が作成します。	ご自身で遺言書を作成し、法務局での保管を申請します。	ご自身で遺言書を作成し、ご自宅等で保管します。
費用	財産の額、相続人等の数などによって手数料が変わります。数万円～数十万円が一般的です。	保管申請手数料は3900円です。	かかりません。
作成様式	遺言者の口述で公証人が作成します。	作成様式が決まっています。また遺言書本文は自筆で書きます。	遺言書本文を自筆で書きます。財産目録は手書きでなくてもよくなりました。
形式や内容の不備	公証人が作成するので、ほぼ法的な不備はないとされています。	書式や形式は法務局が確認します(内容不備の確認は行いません)。	形式・内容に不備がないか、ご自身で確認する必要があります。
遺言書の検認	不要です。	不要です。	ご逝去後、家庭裁判所での遺言書の検認が必要です。



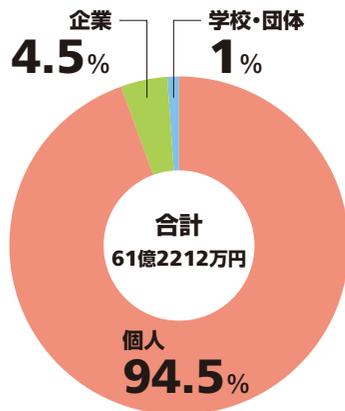
国連UNHCR協会特製「未来のためのエンディングノート」を差し上げます

ご好評をいただいている、国連UNHCR協会特製「未来のためのエンディングノート」を差し上げます。一度エンディングノートをお書きになられても、定期的に更新や書き直しをされる方もいらっしゃいます。ご希望される場合、当協会までお気軽にお知らせください。

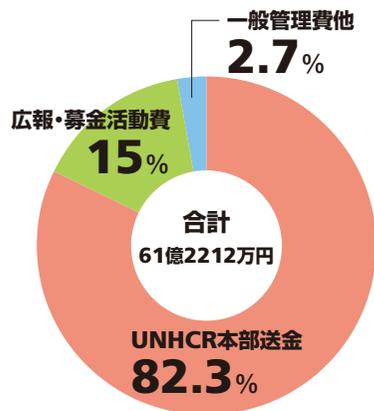
お問い合わせ・資料のご要望は、お電話(0120-540-732)にて、またはウェブサイトからご連絡ください。

2021年も温かいご支援をお寄せいただき、ありがとうございます 皆様からお預かりしたUNHCRへのご寄付の収支をご報告いたします

国連UNHCR協会 寄付金収入



国連UNHCR協会 寄付金の使途



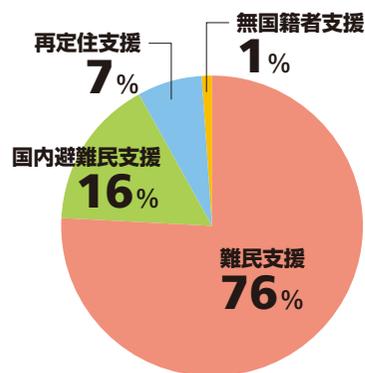
皆様からお預かりしたご寄付は総額61億2212万円に達し、82.3%（寄付金の99.8%を占めるUNHCR寄付金の約82.5%）にあたる50億3596万円をUNHCR本部に送金させていただきました。

なお、支援者の内訳は左記の通りです。*

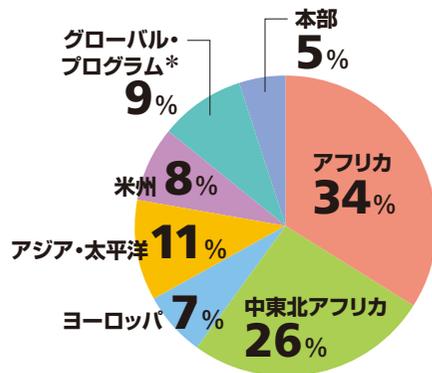
* 国連UNHCR協会では、UNHCR本部との取り決めに従い、お寄せいただいた寄付金の上限25%までを、協会の活動および運営のための資金に充当させていただいております。国連UNHCR協会の総収入・総支出、費用詳細につきましては、次ページに掲載の「2021年度 会計報告」をご覧ください。

2021年UNHCRプログラム活動費分配割合

支援目的別



地域別



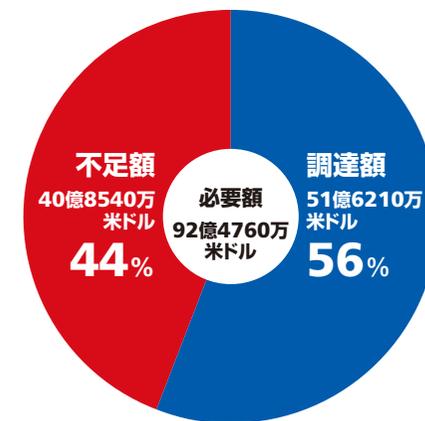
皆様からのご寄付は、UNHCRのプログラムに左記の通り配分されています。

* グローバル・プログラム：UNHCRが全地域で進めている分野別重点テーマを推進するプログラム。

出典：Update on budgets and funding(2021 and 2022)
EC/73/SC/CRP.7

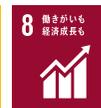
民間からのご寄付が飛躍的に増加 しかし、大幅な資金不足は続いています

2021年、民間からのご寄付は初めて6億米ドルを上回り、UNHCRの活動を力強く支えました。しかし、世界各地の難民援助活動のために必要な資金92億4760万米ドルに対し、調達額は51億6210万米ドルと約56%に留まりました。避難を強いられる人が急増しUNHCRの支援対象者が8650万人を上回るなか、資金不足が続いています。



出典：Update on budgets and funding(2021 and 2022)
EC/73/SC/CRP.7

UNHCRは、
右の12のSDGs目標達成に
力を入れています。



国連UNHCR協会 2021年度 会計報告および役員一覧

正味財産増減計算書

一般正味財産増減の部

自2021年1月1日 至2021年12月31日
(単位:円)

経常増減の部

経常収益

【受取会費】	正会員受取会費	780,000
【受取補助金等】	受取助成金*	1,496,102,433
【受取寄付金】	UNHCR寄付金	5,830,022,578
	寄付金振替額	277,222,112
	協会支援ファンド	13,427,248
	受取助成金振替額	1,338,432
	現物供与	119,169
	為替差益	75,000
	雑収益	54,646
経常収益 計		7,619,141,618

経常費用

【事業費】	人件費(事)	695,040,179
	UNHCR支援金	5,035,964,375
	会場費(事)	999,514
	会議費(事)	230,626
	保険料(事)	30,530
	修繕維持費(事)	8,155,643
	制作費(事)	223,179,212
	印刷費(事)	1,863,655
	広告費(事)	221,007,404
	支払手数料(事)	121,874,097
	旅費交通費(事)	4,280,506
	業務委託費(事)	832,661,322
	水道光熱費(事)	1,632,631
	消耗品費(事)	16,244,654
	減価償却費(事)	46,378,932
	研修費(事)	1,163,515
	租税公課(事)	39,139
	諸会費(事)	66,000
	諸謝金(事)	1,255,103
	賃借料(事)	37,489,312
	資料費(事)	12,327,135
	通信運搬費(事)	272,020,212
	雑費(事)	430,056

* 受取助成金: UNHCR本部からの助成金

** 受取助成金: 教育関係団体助成金

【管理費】	人件費	94,137,474
	会議費(管)	11,172
	保険料(管)	731,910
	修繕維持費(管)	1,586,786
	制作費(管)	75,548
	印刷費(管)	85,767
	支払手数料(管)	12,070
	旅費交通費(管)	531,597
	業務委託費(管)	11,284,082
	水道光熱費(管)	387,267
	消耗品費(管)	322,807
	減価償却費(管)	2,236,630
	研修費(管)	539
	租税公課(管)	1,893,783
	諸会費(管)	75,600
	諸謝金(管)	6,915,995
	賃借料(管)	8,722,776
	通信運搬費(管)	3,255,570
経常費用 計		7,666,601,125
当期経常増減額		△ 47,459,507

経常外増減の部

経常外収益		
雇用調整助成金	81,430,216	
経常外収益計	81,430,216	
当期経常外増減額	81,430,216	
当期一般正味財産増減額	33,970,709	
一般正味財産期首残高	939,069,304	
一般正味財産期末残高	973,040,013	

指定正味財産増減の部

使途指定寄付金受入額	277,222,112	
受取助成金**	1,000,000	
一般正味財産への振替額	△ 278,560,544	
指定正味財産当期増減額	△ 338,432	
指定正味財産期首残高	571,216	
指定正味財産期末残高	232,784	

正味財産期末残高 973,272,797

貸借対照表

2021年12月31日 現在
(単位:円)

資産の部

流動資産	現金預金	1,531,836,446
	未収金	2,104,400
	前渡金	7,724,201
	立替金	27,098
流動資産 合計		1,541,692,145
固定資産		
特定資産	ソフトウェア開発特定資産	86,000,000
	退職給付引当預金	51,489,700
	教育支援活動特定預金	232,784
	特定資産 合計	137,722,484
その他固定資産	建物	16,638,038
	什器備品	1,605,329
	ソフトウェア	147,797,134
	ソフトウェア仮勘定	3,835,746
	敷金	20,451,869
	長期性預金	310,000,000
	その他 固定資産 合計	500,328,116
固定資産 合計		638,050,600
資産合計		2,179,742,745

負債の部

流動負債	未払金	1,140,057,554
	預り金	10,842,694
流動負債 合計		1,150,900,248
固定負債	資産除去債務	4,080,000
	退職給付引当金	51,489,700
固定負債 合計		55,569,700
負債合計		1,206,469,948

正味財産の部

指定正味財産	受取助成金	232,784
指定正味財産 計		232,784
	(うち特定資産への充当額)	(232,784)
一般正味財産		973,040,013
	(うち特定資産への充当額)	(86,000,000)
正味財産 合計		973,272,797
負債及び正味財産合計		2,179,742,745

監査体制について: 国連UNHCR協会では、監事による監査とともに、外部の監査法人(EY新日本有限責任監査法人)に依頼して会計監査を受けています。ここに記載した正味財産増減計算書・貸借対照表は、公益法人会計の基準による2021年度国連UNHCR協会正味財産増減計算書・貸借対照表をまとめたものです。全文は、国連UNHCR協会ウェブサイトからダウンロードいただけます。

役員一覧

代表理事	田中 明彦	政策研究大学院大学 学長	2022年3月1日現在
理事	青井 千由紀	東京大学公共政策大学院 教授	
	渥美 直紀	鹿島建設株式会社 相談役	
	市川 正司	弁護士(新千代田総合法律事務所)	
	稲川 素子	株式会社稲川素子事務所 代表	
	金井 昭雄	株式会社富士メガネ 代表取締役会長・社長兼任	
	マーシャ・クラッカワー	聖心女子大学 名誉教授	
	柴田 拓美	公益財団法人東京二期会 理事	
		公益財団法人ジェスク音楽文化振興会 理事	
	田口 禎則	一般社団法人日本トッブリーグ連携機構 理事・事務局長	
	永山 治	中外製薬株式会社 名誉会長	
	星野 守	当協会前事務局長	
	宮内 孝久	神田外語大学 学長	
	宮嶋 泰子	スポーツ文化ジャーナリスト	
監事	上野 光正	公認会計士(上野公認会計士事務所)	